

多機能ホームましこの里星の宮「運営推進会議における評価シート」<公表用>

別紙 3-3

【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 松徳会	事業所名	多機能ホームましこの里星の宮
所在地	(〒321-4216) 栃木県芳賀郡益子町大字塙 3385 番地		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・ ご家族や地域との繋がりを大切にし、事業所の理念である「大ぜいでいても心地よく 一人でいても寂しくない 笑顔があふれ若返る あなたの第二の家多機能ホーム」を実現するために、在宅生活を支援するためのサービスの充実に努めています。
- ・ ご利用者には「通い」を中心にご利用いただきながら、必要に応じて「泊まり」や「訪問介護」をご利用いただけます。そして最大の特徴でもある小規模多機能型事業所に「訪問看護」を付加した複合型サービスで、県内でも数少ない事業所です。
- ・ 更に、併設施設の地域密着型特別養護老人ホームや地域の地域密着型サービス事業者との連携を密にして益子町の高齢者サービスの充実に寄与できるよう事業運営に努めています。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦2015年__11月__19日	従業者等自己評価 実施人数	(__14__)人	※管理者を含む
----------------	-------------------	------------------	-----------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦2015年__12月__16日	出席人数(合計)	(__14__)人	※自事業所職員を含む
出席者(内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員(__4人) <input type="checkbox"/> 市町村職員(__1人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員(__1人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者(__4人) <input type="checkbox"/> 利用者(__2人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族(__1人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者(__1人) <input type="checkbox"/> その他(____人)			

■ 前回の改善計画の進捗評価

※ 当該様式は、「事業所自己評価」の結果を整理するとともに、その結果を運営推進会議へ報告するための様式として使用します。また、運営推進会議において得られた主なご意見等は、次ページ以降の「運営推進会議における意見等」の欄にメモします。

■ 前回の改善計画の進捗評価 (今回は第1回の評価のため前回評価なし)

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
			自己評価	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1~10)				
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11~27)			
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28~31)			
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32~41)			
III. 結果評価 (評価項目 42~44)				

※ 「進捗評価（運営推進会議における意見等）」には、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします。その他の欄は、事業所が記載します

■ 「今回の改善計画（案）」および「運営推進会議における評価」

項目	改善計画（案）				運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	よく できて いる	おおよそ できている	あまりできてい ない	全く できていない	
	6 (4.3%)	85 (60.7%)	40 (28.6%)	6 (4.3%)	<p>① 目的、目標が明確になっており計画にそって進められていると考える。</p> <p>② 事業運営の評価において良く出来ているが6名、全くできていないが6名と相反しているが、職種の違い等によるものと推測している。</p> <p>③ この評価項目の共有化を図る事により全くできていないと回答した人が減ると考える。</p>
<p>1. 基本方針の策定と周知</p> <p>1) い つ：平成 28 年度事業計画策定までに (H28.2 理事会)</p> <p>2) なにを：現行理念に加え「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」に関する「基本方針」を明示した事業計画のダイジェスト版を施設内ネットワークやホームページに掲載したり、ご利用者ご家族、運営推進会議、益子町役場等の関係機関の窓口に冊子で配布する。</p> <p>3) 目 標：事業計画を全職員と地域に周知することで、新たなサービスが益子町と周辺地域に更に認知され活用されるようになる。</p> <p>2. 職場研修の推進</p> <p>1) い つ：平成 28 年度事業計画策定までに (H28.2 理事会)</p> <p>2) なにを：職場内研修を推進するための「研修委員会」を立ち上げ、事業所及び職員個人の年間研修計画を策定し人材育成に意図的計画的に取り組む。</p> <p>3) 目 標：結果、働き甲斐ある職場になり離職者ゼロを目指す。(H27.4～10の離職者3名)</p> <p>3. 個別緊急時対応マニュアルの作成</p> <p>1) い つ：平成 28 年度事業計画策定までに (H28.2 理事会)</p> <p>2) なにを：ご利用者個々の緊急時対応マニュアルを作成する。</p> <p>3) 目 標：地震等の災害時に安否確認やサービス利用の継続ができるようになる。</p> <p>4. 介護労働者の身体負担の軽減</p> <p>1) い つ：平成 27 年度補助事業</p> <p>2) なにを：介護労働環境向上推奨金（栃木労働局）による介護福祉機器等助成を受けて、入浴用リフトを導入する。(腰痛歴あり職員数：7人中7人)</p>					

		3) 目 標 : 入浴用リフト導入により、介護職員等の腰痛予防及び改善を図れる。				
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11 ~ 27)	14 (5.9%)	142 (59.7%)	58 (24.4%)	12 (5.0%)	
		1. 介護と看護の役割分担の明確化と協同意識の醸成 1) い つ : 平成 28 年度事業計画策定までに 2) なにを : 各専門職の事務分掌の作成 3) 目 標 : 個々の職種の役割を明確にすることで互いの専門性を尊重でき、かつ互いに協力し合って仕事を進める協同意識が更に高められる。 2. 終末期ケアの学習と方針の決定 1) い つ : 平成 28 年度事業計画策定までに 2) なにを : 終末期ケアの研修会の実施 ①基礎知識の研修会参加 ②先進施設の見学研修の実施 3) 目 標 : 当事業所での終末期ケアの取り組み方法や看取り介護の方針を決定できる。				
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28 ~ 31)	3 (5.4%)	10 (17.9%)	28 (50.0%)	5 (8.9%)	
		1. 個別緊急時対応マニュアルの作成 (「I. 事業運営の評価 3. 個別緊急時対応マニュアルの作成」参照) 2. 運営推進会議録の職員への回覧 1) い つ : 次回会議から (平成 27 年 12 月開催から) 2) なにを : ①会議録の施設内ネットワーク (福祉見聞録) への掲示版への書き込みをする。 ②全職員が掲示版を必ず閲覧するよう管理者又はリーダーが朝の打合せ時に口頭で注意喚起する。 ③多機能会議において運営推進会議で出された意見や助言がサービスに活かせるよう検討する。 3) 目 標 : 全職員が運営推進会議で出された意見をもとに、サービスを創造するためのアイデアを出しチームに貢献することができる。				
	3. 誰でも	4 (3.2%)	19 (15.1%)	48 (38.1%)	46 (36.5%)	

<p>安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)</p>	<p>1. 運営推進会議録の公表</p> <p>1) い つ: 次回会議から(平成27年12月開催から)</p> <p>2) なにを: ①概要をホームページに載せる。 ②会議録の写しを施設玄関ホールと地域交流室に常設する。</p> <p>3) 目 標: 地域住民が運営推進会議の内容を知ることができ看護小規模多機能のサービス内容を知ることができ、福祉サービスの選択に資することができる。</p> <p>2. ふれあいサロンの場所の提供と活用</p> <p>1) い つ: 平成27年12月</p> <p>2) なにを: 平成27年11月から当施設の地域交流室で始まった益子町住民ボランティアによる「ふれあいサロン」の参加住民に対し次のことを行う。 ①利用者との交流をする。 ②事業所のリーフレットや行事案内を配布する。 ③認知症サポーター養成講座や介護者教室等のミニ福祉講座を開催する。</p> <p>3) 目 標: 活動を通じて介護保険外のサービスの創造に繋がられ、地域住民の方に福祉が特別なものでないことが啓発され、益子町の街づくりに貢献ができる。</p> <p>3. たんの吸引を必用とする利用者受け入れの検討</p> <p>1) い つ: 平成28年4月</p> <p>2) なにを: 介護職員等による喀痰吸引等研修受講を進める。</p> <p>3) 目 標: 受け入れ体制の基礎作りができ介護職員のキャリアアップに繋がられる。</p>				<p>① 全体的には今後、実施すべき事が多く、「あまりできていない」「まったくできていない」等になったと考える。</p> <p>② 計画にそって実施していくことを望む。</p> <p>③ 【委員からの質問】 「その他ふれあいサロンで施設が地域に対して行い情報提供の方法はありますか？」 【事業所の回答】 ・認知症サポーター養成講座の開催や、サロンの時に職員が認知症対応の寸劇などをするなど考えられる。 ・県内には看護小規模多機能がまだ2ヶ所しかなく、認知度が低くサービス形態がわかりにくいので、PRの動画を作成するなど考えられる。</p>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>	<p>ほぼ全ての利用者について、達成されている</p>	<p>利用者の2/3くらいについて、達成されている</p>	<p>利用者の1/3くらいについて、達成されている</p>	<p>利用者の1/3には満たない (看取りの希望者はいない)</p>	<p>.</p>

	1 (2.4%)	20 (47.6%)	4 (9.5%)	15 (35.7%)	
	<p>1. 利用者満足度アンケート調査の実施</p> <p>1) いつ：平成28年3月</p> <p>2) なにを：ご本人とご家族を対象にサービス利用に対する満足度調査を実施する。</p> <p>3) 目標：計画目標の達成度をサービス利用の当事者に確認し、今後のサービスの創造に繋がられる。</p>				① 今後、満足度アンケートの結果を踏まえ計画に繁栄させてください。

※「改善計画（案）」には、事業所としての案を記載します。「運営推進会議における意見等」は、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		10	4		⑪に記載されている通り理念に「基本方針」を明示して下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」 ✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」 ✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] ① 独自の理念を掲げているが、サービスに求められる内容も今後含めていきたい。 ② 理念を掲げている③④が含まれている。 ③ サービスを利用することで、家族の介護負担が減り、訪問介護、訪問看護(リハビリ)家族の方が安心していと考えます。 ④ ご利用者さん一人ひとりに合った介護をできるように目配り気配りをしています。 ⑤ 一人ひとりできる事は声掛けし、ご自分のお家でも一人でもできるように上手に声掛けし見守っている。 ⑥ ご利用者様の体の変化をよく見て変化がある場合はナースに報告している。 ⑦ 在宅者の服薬チェック、安否確認、利用者に合わせてサービス時間など真剣に取り組んでいる。 ⑧ 在宅O ₂ 療法、利用者に対するHOT管理、内服管理などご自分ではできない部分を施設スタッフが訪問管理している。 ⑨ ②⑤に対しては不十分な部分が見られるが(利用者が少ないのが原因)、③④に対しては、多機能来所時又は訪問介護、訪問看護を通して利用者様と共に対応し、利用者様及びご家族様も満足されている様					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<p>子が見られると考えられる。</p> <p>⑩ 個々のニーズに合ったサービスを提供する努力は皆しているが、家族、本人の求めるもの全てに応え満足しているかは不明。今年度は事業所の理念を職員で作成し更新したが、①～⑤をより明確にするために理念に「基本方針」を明示したい。</p>					
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	1	10	2		<p>① 今後利用者アンケートで明確にできるか。</p> <p>② 職員が率直に不満が言えるというのは大変貴重なこと、今後は内容に対しての不満？なぜ不満があるのか？など具体的に確認し進めてほしい。</p>	<p>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>① 朝礼の時、理念を復唱している。</p> <p>② 理念については（周知されているが）理解しているつもりだが思うように実践できていない。</p> <p>③ 家族の介護負担が軽減し家族が安心することにより、職員が理解して頑張っています。</p> <p>④ 理解はできていますがご利用者さんたちが「こちよく」思われているかどうか不明です。</p> <p>⑤ 朝礼の時に復唱し、常に頭に入れて仕事をしている。</p> <p>⑥ 内容は理解しているが、それに対しての不満から利用者に悪い影響を与える介護者が目立つ。</p> <p>⑦ 朝礼時に声出し復唱することにより毎日の業務が理念に沿い業務を実施していること</p>					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		<p>を確認している。</p> <p>⑧ 朝礼で理念を読み上げてはいるし努力はしている。しかし、現状は難しいと思われる。</p>					
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		4	7	2	<p>① 職員は具体的な状況を欲しているため、今後は人材育成計画を作成していくべきである。</p>	<p>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</p> <p>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</p> <p>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</p>
4	○ 法人内外の研修を受ける機会	1	7	5		<p>✓ 「専門技術の向上のための日常業</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
	を育成計画等に基づいて確保 するなど、職員の専門技術の 向上のための日常業務以外で の機会を確保している	【具体的な状況・取組内容】 ① 研修会の参加の充実を図りたい。 ② 若手中堅研修会を実施している。 ③ ケアマネ研修、認知症実践者研修に参加 している。 ④ 自分自身のスキルアップになるため、時 間が合えばこれからも参加したい。 ⑤ 勉強会などに参加している。 ⑥ 何度か研修を受け良かったと思える研修 もあった。 ⑦ 看護多機能になってから手探りでやっ てきました。当初何も分からないので研修に 出してほしいと願ったが、今までどこへ も行かず、ただ流れに乗ってこれでいい のかと思いながらやっている。 ⑧ 若手、中堅研修会はためになっている。 ⑨ 数多く参加しスキルアップしたい。 ⑩ 年間研修計画に基づき月次で研修受講機 会を設定しているが、職員個々に自らキ ャリアアップするための取組みが不十分 である。				特になし	務以外での機会の確保」について、 充足度を評価します
②	介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保						

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		1 2	2		特になし	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します ✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
<p>【具体的な状況・取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 多機能会議やサービス向上委員会で利用者情報を話し合っている。 ② 利用者状況の情報の共有は月1回の多機能会議で行っている。 ③ その都度変化があれば情報交換は行っている。 ④ 日常小さなこと(小さな傷でも湿疹でも)でも報告している ⑤ 日々の連絡は不満が目立つ、交代勤務、休み明けの連絡事項のシステム化が必要と思われる。 ⑥ 朝は迎えの車が出てスタッフ全員が集まることはなく、利用者が来はじめれば入浴で戦争の要、訪問介護も看護もあり、情報共有がきちんとされていない。私自身“ここまでのレベル”というところまで向上もできていない。 ⑦ 不明な点に対しては各スタッフに質問し対応をどうするかを理解することにより共通認識を得て実施している。 ⑧ 会議は定期的により情報の共有と交換はできていると思う。 ⑨ 紙面上や言葉でもある。しかし、100%ではない。(知らない方がまれにいて、すべてに行き渡っていない) 							
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
6	○ 運営推進会議で得られた要望、助言等を、サービスの提供等に反映させている	1	8	3	2	特になし	✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します
<p>【具体的な状況・取組内容】</p> <p>① 会議で自治会長から情報提供のあった「星の宮フェスティバル」開催にあたり利用者の作品を出展した。</p> <p>② 即日連絡あり、具体案が報じられている。</p> <p>③ 施設側の目指すべきところと、私自身が思っている目指すところは同じなのか…。</p> <p>④ パソコンにより伝達されているが、詳細についての説明はされていないため、サービス提供まで達していないと考える。</p> <p>⑤ 情報の交換、伝達、実践できていると思う。</p> <p>⑥ 委員会の皆さんから得られた情報や助言等を活用させていただいている。</p>							
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
7	○ 職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		7	7		<p>① 平成 27 年度の補助事業で実際には 3 月すぎにリフトが導入される予定。</p> <p>② 細かい仕事をやっている。日常の業務が間に合わないとう事態ができていないか？仕事が追いつかないときにどう解消するかが重要である。</p> <p>【事業所】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後、事務分掌と業務マニュアルを作成して業務をスタンダード化し仕事の量と質を見えるようにしたい。 ・平成 27 年 12 月より施行となった事業所でのストレスチェックを年 1 回の職員健診に取り入れ、職場環境を整える予定。 ・⑧の送迎車両は利用者送迎には使用していない。 	<p>✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足	
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い			
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備								
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている	1	10	3		<p>【具体的な状況・取組内容】</p> <p>① 申し送りノート、ホワイトボードの活用</p> <p>② 随時分らないことがあれば看護、介護で話し合い解決している。</p> <p>③ 申し送りやPC入力を通して共有を図れるよう工夫しているが抜けてしまうことがある。</p> <p>④ 車椅子使用者の送迎時、入浴介助、トイレ介助時の二人介助</p> <p>⑤ 朝礼、申し送りノート、職員からの連絡などで共有できている。</p> <p>⑥ どんなに小さなことでも報告している。</p> <p>⑦ 朝早く出勤してパソコンや申し送りノートを毎日見ている。</p> <p>⑧ 変更時の連絡ミスが目立つ（介護度、サービス提供内容、介助内容など）</p> <p>⑨ 連絡ノート使用、利用者フェースシートにより情報共有</p> <p>⑩ 申し送りノートの活用及びケアマネ情報の共有がなされている。</p> <p>⑪ パソコンの事業者ソフト（東経システム「福祉見聞録」）の導入により</p>	<p>① 色々なツールにより情報が共有されていると思うがどうなのか？</p> <p>② 文章だけでは、個々のバラつきがある。受けとる側にきちんと伝わるように、何らかのルール作りが必要である。</p> <p>③ 変更時の連絡ミスがないようが対策すること。</p>	<p>✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p>
(5) 安全管理の徹底								

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等 および職員の安全確保のため、 事業所においてその具体的な 対策が講じられている	1	10	2	1	<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <p>① 事故が起きたらカンファランスを行い、 再発防止策を検討し対応している。</p> <p>② 事故予防等について話し合われているが 実践できていない。</p> <p>③ 個人情報保護などは、何を聞かれても話 してはいけない。個人情報はプライバシー なので私たち職員は個人の秘密を絶対 教えてはならない。ご利用者一人ひとりの ファイルに保存している。</p> <p>④ 訪問時などに緊急を要した場合、上司に 連絡すると至急対応してくれている。</p> <p>⑤ 施設としてはしていると思うが自分は理 解していない。個人情報保護は守られて いる。</p> <p>⑥ 交通事故対策及び2人での利用者様対応 などはよくできている。</p> <p>⑦ 訪問看護、介護時の不審者が出た際は情 報の共有と対策はあった。しかし、細か くいろいろなことに関してはない。</p> <p>⑧ 事故防止対策委員会による検討をして いる。</p> <p>⑨ 送迎車両にLEDライトを備え訪問時にも 活用できるようにしている。</p> <p>① 話し合われたことが実践で きるよう進めること。</p> <p>② 具体的な対策が理解されて いないこともあるので、職 員に周知徹底する方法を検 討すること。</p>	<p>✓ 「各種の事故に対する予防・対策」 の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例 えば「医療・ケア事故の予防・対策」、 「交通安全」、「夜間訪問時の防犯 対策」、「個人情報保護」などが考 えられます</p>
② 災害等の緊急時の体制の構築							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている	1	7	5	1	<p>・共有されていない部分の共有化</p> <p>・計画通りに、緊急時マニュアルを作成する。</p>	<p>✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます</p>
<p>II サービス提供等の評価</p>							
<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供</p>							
<p>(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成</p>							
<p>① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施</p>							
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている	1	10	1	1		<p>✓ 「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します</p> <p>✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメントが</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
						⑤ 計画票の提示はない。 ⑥ 訪問看護においては24hの暮らし全体に着目して計画を立てている。 ⑦ 利用者様の送迎等を通じて家族様の生活全般の様子を理解し対応できている。 ⑧ 紙面や言葉で伝達共有しているが全員が理解しているかどうかは不明。カルテを見て情報を得たり家族から情報を得たりはしている。 ⑨ 24hアセスメントに基づいて「通い」「訪問」「泊まり」が構成できているが、更に細かな情報収集と分析をしてサービスを構築する必要がある。	必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種の間で共有されている		9	4		[具体的な状況・取組内容] ① 利用者の状況を申し送り、連絡ノートで情報共有している。 ② カンファランスを通して共有していることはある。 ③ 変化があれば報告相談している。 ④ ご家族が望む生活はできているが、ご利用者が望んでいる生活は少し違う気がする。帰宅願望のご利用者様が多い。 ⑤ 介護職員の意見提供する場がない。 ⑥ スタッフ間の連絡、カンファはその都度行っていると思うが、じっさいはどうか？ ⑦ 情報の共有は常にしている。	✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいといえます
	② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成						
13	○ 家族を含む利用者等の考えを	1	11	1			✓ 「家族等の考えを含めた計画の作

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足	
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い			
	把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている	【具体的な状況・取組内容】 ① プラン作成時は要望を確認している。 ② 利用者が利用途中に帰宅を望めば、送迎したり、ご家族の都合で送迎時間も融通ができる。 ③ 利用者によって差が大きい 提供多い→計画する。 提供少ない→何もしない 差が出る。 ④ 訪問看護計画においては家族を含む利用者の考えが必要。 ⑤ 家族様の本音の会話は未だ充分といえない。 ⑥ 訪問看護計画を作成するときは家族の声を聴いて作成している。				・非常に良い。 ・当然の事であり、家族等と良く話し合いをすすめるべきである。	成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます	
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		10	2		【具体的な状況・取組内容】 ① 心がけている。 ② 利用者より家族要望に敏感になりすぎではと疑問が持たれる時がある。 ③ 残った能力を最大に生かせるようリハビリを行っている。 ④ レクリエーション等により体力向上に努めている。 ⑤ 心身の機能向上させる計画は、当然目標をもって接しているが、利用者の能力を最大に生かしているかは不明	・家族の要望に敏感になる事は良い事だがどのような事に疑問が持たれるのか？それは良くない事か？ ・非常に良い事である。	✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成								
15	○ 利用者の今後の状況変化の予	1	7	4			✓ 「状況変化の予測」と「リスク管	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足	
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い			
	測と、リスク管理を踏まえた 計画が作成されている	【具体的な状況・取組内容】 ① 心がけている。 ② 福祉器具利用の徹底 ③ 計画を立てるときは、現在、これからを 考え、できる限り現状を改善できるよう している。その時々 ④ 状況変化及びリスクに対しては常に観察 し手対応しているが、文書としては未熟 だと考えている。 ⑤ アセスメントし、計画書を変更したりし て実践している。				・やはり、PDCAをきちんと 回すことにより向上する。 ・記録を残すことにより次の計 画に反映する。	理」の2つの視点から、充足度を 評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される 看護小規模多機能型居宅介護にお いては、特に看護職による予後予 測などを踏まえて計画を作成する ことが重要です	
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践								
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映								
16	○ サービス提供を通じた継続的 なアセスメントにより、利用 者等の状況変化を早期に把握 し、計画への適宜反映が行わ れている		10	4		【具体的な状況・取組内容】 ① 日常生活での利用者の変化は、申し送り で対応している。 ② 状況に応じて柔軟に対応している。 ③ 細部提供が記されないときがある。 ④ 文書での計画及び適宜反映はできていな い。把握は未熟。 ⑤ 文書計画は誰がするのか不明瞭→ケアマ ネだけでよいのか？ ⑥ 早期に把握はできていないが、情報を得 たら対応する努力はしている。	・識君分拳等で明確にし実践 す る	✓ 「早期の把握」と「計画への適宜 反映」の2つの視点から、充足度 を評価します
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映								
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に	1	8	4		✓ 「訪問による、家族等を含めた居		

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足	
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い			
	偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	【具体的な状況・取組内容】 ① 利用者と家族の意見を聞いてサービス提供をしている。 ② 概ねできているが偏りがある。 ③ ケアマネージャーがやっていると思う。 ④ 介護の仕事内容と離れているので分らない。ケアマネがやってくれている。 ⑤ ご家族からの希望があればそれに従っていると思う。 ⑥ ケアマネが充分理解し伝達されているがそれだけでよいのかとは思いますが…。 ⑦ 社会的立場や家庭環境については、訪問に関わっている方は特に把握しているつもりである。				・利用者と家族の意見を十分理解しケアマネージャーの情報を担当者は共有する。	宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です	
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有								
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている		10	3		【具体的な状況・取組内容】 ① 利用者の状況が変化したときは、主治医に連絡し指示をもらっている。 ② 必要時は実施している。 ③ 分らない。看護師はできていると思う。 ④ 訪問看護をしている利用者様はされている。 ⑤ 受診及び医師指示書等により共有されている。 ⑥ 医師以外はできていると思う。医師によっては、紙面上のみのやり取りだったりするのですべて共有できているかどうかは不明。	・情報の共有に務める。	✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
19	○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている	2	8	4		<p>・柔軟な役割分担が決まっていると考えるが、②⑤の意見の様に立場によって逆の見方をしている。①の様にすべき。</p>	<p>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</p>
20	○ 利用者等の状況について、介	2	10	2			<p>✓ 「介護職と看護職の情報共有およ</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
	<p>看護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている</p>	<p>【具体的な状況・取組内容】</p> <p>① 多機能会議やサービス向上委員会で行っている。</p> <p>② 情報の共有は行えているが対応策等が明確化していない。</p> <p>③ 状況変化があれば情報を共有している。</p> <p>④ 問題があればすぐに声掛けあっている。</p> <p>⑤ 立ち話程度の小カンファレンス等を行うことにより密に行っている。</p> <p>⑥ 全員ではないがよくミーティングはする。</p>				<p>・あまりできていないの2名は何なのか明確にすべき。</p>	<p>び対応策の検討」について、充足度を評価します</p>
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
21	<p>○ 看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている</p>	1	1	1			<p>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</p> <p>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</p>
(4)利用者等との情報及び意識の共有							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	2	8	4		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者等の理解を得るための満足度の評価をどのように行うか？ 	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ① パンフレットを使用し説明している。 ② 具体的事例や対処法を説明している。 ③ 利用者さんの理解はわかりません。 ④ お泊りの時は、「顔馴染みの〇〇さん」と伝えると安心される。 ⑤ 認知症利用者に対して介護員の理解ができていない。 ⑥ ご家族ご本人に理解を得るようにしている。 ⑦ 説明はしているが利用者様の理解は不十分である（利用者様の思い込み、信念と合わない等が原因） ⑧ 利用者の認知の程度もあるので努力はしていますが理解を得ているかは不明					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	1	7	6		<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネージャーと現場スタッフは情報を共有すると共に、満足度の評価はどのようにおこなうか。 	✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ① 必要時は紙に書いて渡す等している。 ② 計画書に目を通していない職員がいる。 ③ 訪問看護計画書に沿ってご家族ご本人に理解を得ている。 ④ ケアマネが行っていると思っているが、現場スタッフまでの伝達は未熟です。 ⑤ 家族にはしているが、利用者の理解は認知の程度によっては得られているかは不					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		明					
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		9	5			✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ① 認知症や理解力低下により困難だがその都度説明している。 ② よくわからない。 ③ 在宅O ₂ 療法、HOT挿入中の注意点など指導している。 ④ その都度説明はしているが、利用者様の理解力により違いが多くみられる。しかし、説明は密にし利用者様が理解できるよう心掛けて実施している。 ⑤ 直接言葉や紙面上で説明はしている。					
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している	1	7	4	1	・全員が共有できるように計画する。	✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ① 本人の状況を把握し確認しながら進めている。 ② ご本人が意思の決定や表示ができない場合はご家族に聞いている。 ③ 終末期利用者を介助していないため分らない。 ④ 家族に希望を100%かなえて実現していると考えている。 ⑤ 病院との連携はしている人もいればそう					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
		でない人もいて、基本的に全員は共有できていないと思う。 ⑥ 終末期対応可能な体制作りが必要。					
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている	1	7	5	1	・ 全くできていないとは何か	✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ① 利用者と話したり家族とも話し合い相談している。 ② 家族との情報交換を密にし結果をすぐ介護員に公開している。 ③ 現在そういう状況の利用者はいない。 ④ 想定はしていてもその都度充分説明し対応できているかは不明瞭。 ⑤ ケアマネを通して情報交換している。					
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している			3	9	・ 現在までは対象者がいないようであるが今後⑤の様に進めるべきである。	✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ① 対象者なし ② 看取りは経験したことがない。 ③ 具体例がないので分らない。 ④ まだ対応すべき人材がいなかったため出来ていない。 ⑤ 終末期ケアの体制ができていない。今後グリーンケア等の研修受講や先進施設見学、介護職員等による喀痰吸引等研修受講も進め3年後には体制を整え取り組みたい。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
28	○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している		8	5		・連携をとって行っているよう で情報は全員で共有し進める。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
29	○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている	1	5	7	1	・主治医等との相談・共有する 為に実施すべき事を明確にする。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します ✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている	1	3	9	1	・対応マニュアルの作成を早急に行う。	✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ① よくわからない。 ② できていないと思う。 ③ 緊急事例がまだ見当たらないので、まだできていないし、話し合いも未だの状態です。 ④ 即座な対応が可能かどうかは利用者全員は不明 ⑤ 個別の急変時対応マニュアルができていない。					
(2) 多職種との連携体制の構築							
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討							
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている	1	2	7	3	・今後、情報開示を行う。	✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
		<u>[具体的な状況・取組内容]</u> ① 利用者のサービス状況等の説明しか行えていない。 ② 行っていない。 ③ 施設では行われていると思うが、自分はそのことがありません。 ④ 私たちは報告ぐらいしか行われていない。 ⑤ 私個人はしたことがないので分からない。ケアマネなどから聞いたことはある。 ⑥ 外部の委員メンバー（星の宮自治会長、埴自治会長、民生委員、益子町職員、益子町地域包括支援センター保健師、真岡					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		消防署益子分署長、益子町社会福祉協議会事務局長) 7名の方から各々の専門分野からの助言指導をいただく機会がある。					
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている		4	5	4	・ 迅速に情報発信を行う。	✓ 「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ① 誰でも見ることができていない。 ② 行っていない。 ③ PCに掲示あり。 ④ 誰でも見ることができるようにはなっていない。					
33	○ サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けの積極的な啓発活動が行われている		3	8	2	・ 積極的な情報開示 今まで施設で色々な事が行われており、この様子等を含め地域の方に知っていただく	✓ 「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます
		[具体的な状況・取組内容] ① 益子町地域包括支援センター主催の介護支援専門員連絡会等で説明している。 ② 益子町役場内にパンフレットを置いていただいている。 ③ 行っていない。 ④ 地域の方に聞かれれば説明しているが、多機能ホームの理解が得られていない。 ⑤ 地域に密着している。 ⑥ チラシ等は未だ、その他の方法も見ることがない。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あま り で き て い な い	全 く で き て い な い		
		⑦ 病院訪問はしているが、私個人は積極的に幅広くはしていない。 ⑧ 平成27年11月から当施設の地域交流室で始まった益子町住民ボランティアによる「ふれあいサロン」を活用した住民に対する啓発活動を実施する。					
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> [具体的な状況・取組内容] 指定なし </div>					<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください ✓ 「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できている	あまりで きていな い	全く できていな い		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている	1	2	6	4	<ul style="list-style-type: none"> ・②④と⑤は全く反対の意見である。 現状の共有がされていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
<p>【具体的な状況・取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① していない ② 体制がない。 ③ 施設で「たん吸引」の研修は受けたが、ご利用者はまだ受け入れている。 ④ 受け入れ体制の具体的な文書はまだ見ることがないし話し合いも未だの状態です。 ⑤ 体制は整っているがそういう対象の利用者は今のところなく、積極的に受け入れてはいない。拒否もしないが。受け入れ可とは情報提供している。 ⑥ 介護職員等による喀痰吸引等研修受講も進め3年後には体制を整え取り組みたい。 							
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができる体制が整っており、積極的に受け入れている			3	1 1	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、体制を整えるように研修会等を計画する。 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します
<p>【具体的な状況・取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 希望者なし ② 体制が整っていない。 ③ まだ受け入れたことがない。 ④ 講習は受けていない。 ⑤ 24h看護師勤務はできていない。 							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき てい る	およそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
37	○ 「看取り支援」を必要とする 要介護者を受け入れることが できる体制が整っており、積 極的に受け入れている		1	4	8	・体制作りを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、 充足度を評価してください ✓ 「受け入れることができる体制」 が整っていない場合は、「全くで きていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よく できている」は、その「積極性」 の視点から、充足度を評価します
【具体的な状況・取組内容】 ① 体制が整っていないため出来ていない。 ② まだ「看取り支援」を受け入れたことが ない。 ③ 話したことがない。 ④ 今後看取り介護は必要になる思えるが今 までそういう利用者はいない。							
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が 介護保険事業計画等で掲げて いる、地域包括ケアシステム の構築方針や計画の内容等に ついて理解している			9	4	・③に記載されているように 中長期計画に入れ取り組ん でください	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「内容等の理解」について、その 充足度を評価します ✓ 地域包括ケアシステムの構築にあ たっては、その中で各々が果たす べき役割を、明確に理解すること が必要であるといえます ✓ 地域包括ケアシステムの構築方針 や計画などが無い場合は、「全く
【具体的な状況・取組内容】 ① 理解していない。 ② よくわからない。 ③ 様々な機会での示すチャート図を目に している職員は概要は理解していると思 うが、市町村レベルの具体的なシステム ができていないのが現実である。今後は 地域包括ケアシステム構築のための事業 所の位置づけや役割を明確にするための							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における 意見等	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できて いる	おおよそ できてい る	あまりで きていな い	全く できていな い		
		中長期計画を策定するなど全職員で取り組みたい。					できていない」
② サービス提供における、（特定の建物等に限定しない）地域への展開							
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	3	6	3	1	←この地域とは？	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ① 益子町全域を対象にしている。 ② 個人指定で益子町に隣接する町外からの登録も町間で協議いただき受け入れている。 ③ ケアマネージャーやナースが病院に行ったりしている。 ④ 地域に対してはやっていないと思う。					
③ 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		1	3	9	・今後、積極的に進めてください	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における
		<u>【具体的な状況・取組内容】</u> ① 行われていない。 ② 私はそのような取り組みはしたことがありませんし考えたこともありませんでした。 ③ ケアマネ、相談員から情報ができている。 ④ 地域福祉（コミュニティーワーク）を推進する意図的な取組みはしていないが、今後「ふれあいサロン」を活用したり、地域福祉コーディネーター養成研修受講を					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
		よくできている	おおよそできている	あまりできていない	全くできていない		
		し積極的に進める必要がある。					課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		2	7	4	<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u></p> <p>① 家族におむつ交換の方法や服薬について説明したり指導を行っている。</p> <p>② ご利用者の近隣住民との関わり方にもよるのでは？</p> <p>③ ご家族にはできているが、近隣住民にはプライバシーなのでやってはいけないと思う。</p> <p>④ 家族にはしても近隣まではしていない。最も近隣はその人により難しいのでは？</p> <p>⑤ 民生委員の協力を得て家族のアプローチを進めた事例があり、今後当事業所として地域包括ケアに関わるとしたら重要なアプローチと認識しているので、これも「ふれあいサロン」や「運営推進会議」を入りにアプローチしたい。</p> <p>・家族等には具体的な取り組み等行えるが、近隣住民には難しい部分がある。情報の開示等を等を含め、この施設の利点をアピールし、近隣住民にアプローチしていく等、行ったらどうか。</p>	✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 1 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 8 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 1 4. 利用者の1/3には満たない 3 [具体的な状況・取組内容] ① 希望可能なサービスは行っている。 ② まだ不十分、計画目標自体も不明瞭。	・不明確部分を明確にする。 ・1と4の差は何か？	✓ 「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が得られ	1. ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 11 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 2 4. 利用者の1/3には満たない	・今後、さらなる安心感が得られるように。	✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における意見等	評価の視点・評価にあたっての補足
	ている	<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>① 全てが医療が必要というより心のケアによる安心感が必要な利用者もいる。</p> <p>② まだ必要な医療を受けて療養生活をうけている利用者の数が少ない状況です。実際今されている方々は安心されていると思います。</p>		価します
44	○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 1</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 1</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>5. 看取りの希望者はいない 1 2</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>① 具体例がなくわからない。</p> <p>② そこまでの話になっている方はいない。</p>	・ 今後の状況により対応する。	<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い・泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>